



ふれあい

2014.2

Vol. 2



日本医療機能評価機構認定病院

医療法人社団
豊美会

田代台病院・精神科・神経内科・内科

発行責任者：院長 中邑義継 〒754-0122 山口県美祢市美東町真名2941番地 TEL 08396-5-0301 FAX 08396-5-0861

病院理念

心や生活機能に障害をかかえるお年寄りの治療の為に、
職員一同が、家族や地域の方々と連携しながら、
医療、看護、介護や啓蒙を総合的に提供していきます。

看護理念

「和」の精神のもと、患者・家族・地域の皆様の
期待に応えられる看護を提供します。



田代台病院は、よりよい医療を提供
していくために、日本医療機能評価
機構の認定を取得しています。

ガラパゴス化防止対策としての病院機能評価

「ガラケー」という言葉をご存じですか。これは「進化しすぎて日本以外では通用しなくなった携帯電話」のことで、外の世界と断絶された環境の中で独自に進化した動植物が生息するガラパゴス島に由来し、「ガラパゴスケータイ」略して「ガラケー」と呼ばれるようになりました。病院においても同じことが危惧されています。田代台病院では、ガラパゴス化を防ぎながら進化をさせるために平成 22 年 6 月に病院機能評価の認定を取得いたしました。

病院機能評価は、公益財団法人・日本医療機能評価機構が、中立的・科学的・専門的な見地から、病院組織全体の運営管理及び提供される医療について他者評価を行う仕組みです。客観的指標に基づいて自院を評価することで、病院が患者さんや地域から遊離していないか？時代の要求に取り残されていないか？などガラパゴス化防止のために警鐘を鳴らすことができます。

当院の病院理念は「心や生活機能に障害をかかえるお年寄りの治療の為に、職員一同が、家族や地域の方々と連携しながら、医療、看護、介護や啓蒙を総合的に提供していきます。」と掲げています。これは当院が果たすべき使命を具現化したものです。病院機能評価では、病院理念を絵に描いた餅に終わらせず、患者さん・ご家族・地域の皆さんに知っていただき、職員の行動規範として実践していくことが求められています。ですから病院理念こそが時代や地域の要求にマッチしているか否かのガラパゴス化の指標といえるのではないのでしょうか。当院は5年間の認定期間を迎える平成 27 年 4 月には、新評価体系バージョン1に合わせ病院理念の再検証を行う予定です。少子超高齢化、認知症増加、地域活力、医療技術、チーム医療、人権、倫理、プライバシー保護など様々なキーワードを解しながら、これから当院が果たすべき役割について再検討していきたいと思っております。





医療社会事業課に なんでもご相談ください



医療社会事業課って堅苦しい名前ですが、地域と田代台病院を繋ぐ役割を担っています。現在 3 名の精神保健福祉士がケースワーカーとして、仕事をしています。

●受診や入院、デイ・ケア、訪問看護の利用について

受診は、予約制（緊急の場合は除きます）、事前に相談をお受けし、受診や治療を適切に行うため、様々な情報提供をお願いしています。また、当院への入院は精神保健福祉法に基づく手続が必要となりますので、そのお手伝いをしています。

重度認知症患者デイ・ケアなごみや訪問看護は、地域に暮らす方々に利用していただくための資源ですが、他の資源と連携しながら地域での生活を維持して頂く為に、行政や介護・福祉関係者との連絡調整や地域での会議などにも積極的に参加し、緊密な連携を図っています。

●保健・医療・福祉の制度や施設の利用について

障害者手帳などの各種制度の利用は煩雑です。その説明やお手伝いをしています。

●当院からの退院や退院後のことについて

入院された患者さんに対し、地域との連携や情報提供を通じ退院に向けた支援を行っています。また退院された患者さんにも引き続き支援を継続しています。

●当院での治療などで、わからないことやお困りのことについて

不安なことやお困りのことについて、何でもご相談をお受けしています。寄り添い、一緒に解決を図っています。

●田代台病院家族会の入会や活動について

当院の入院患者さんの家族会の事務局をしています。家族同士が気軽に話したり、病院職員との交流や食事・作業療法など病院を知る機会を作ったりと少しでも心にゆとりを持てるように定例会を開催しています。26 年の歴史があり定期的に発行している会報誌「共に歩む」も 164 号になりました。

まずは、お電話で
ご連絡下さい。



田代台病院 医療社会事業課 TEL 08396-5-0301（担当：岡屋・上利・河村）



認知症 ケアのポイント

今回の テーマ

【食べたことを忘れてしまう】

田代台病院 精神科看護・介護勉強会 認知症部会

食べたはずなのに、「食べていない」「食べさせてもらってない」と何度も繰り返し言う。こんな話を、聞かれたり経験されたりしたことはありませんか？実はこれは、認知症の典型的な言動です。この言葉の、主な原因と対応の一例をご紹介しますと思います。

I. 原因となる主な症状

記憶力の低下（物忘れ）

認知症の物忘れは、普通の物忘れとは少し違います。普通の物忘れ（ど忘れ）は、食事の内容を忘れても食べたことは忘れません。しかし、認知症の方は食べたこと自体がすっぽりと記憶から抜け落ちてしまうので、いくら説明をしても思い出すことが難しくなっています。そのため、「食べていない」という言葉や繰り返し尋ねるといった言動につながってしまいます。



II. 対応の方法

1. 「食べていない」ことが事実であることを受け入れましょう。

「食べたこと」自体を忘れてしまう認知症の方々にとっては、「食べていない」ことが事実です。ご飯を食べたことをいくら説明しても、相手を怒らせてしまったり、押し問答になってしまいがちです。

⇒このように対応してみましょう!

「今から作るので、ちょっと待ってくださいね」「もうちょっとで出来ますよ」など「食べることができる」という安心感を持ってもらえるような言葉かけや返事をしてみましょう。

2. 小腹が空いたり、空腹なのかもしれません。

ちょっと小腹が空いた感じから、ご飯を「食べていない」と訴えていることもあります。

⇒このように対応してみましょう!

「ご飯ができるまで時間があるので、コレを食べて少し待っていてくださいね」と言葉をかけながら、お菓子などの間食をしてもらうことで気分を変えてもらいましょう。

デイ・ケア なごみ通信

「初詣」



今年最初の活動で、大田八幡宮まで初詣ドライブに出かけてきました。
年末から、初詣の思い出話や、おみくじの予想をしたりと楽しみにして迎えた当日は、お正月寒波の心配もよそにいいお天気！

「日ごろの行ないがええからじゃろう！」と、皆さんいそいそと車に乗り込み、さあ出発！

水は冷たかったですが、しっかり手をお浄めしてお参り。
「何のお願いしたん？」「そりゃあ、内緒いね〜」「やっぱり、家族の健康が第一よ！」



帰りは道の駅へちょっと寄り道。ぜんざいを食べたり、好きなお団子を買ったりしました。「また来たいね」「じゃあ、昼からも来ようや！」という会話に全員大笑い。いつもは笑顔の少ない方も、「今日は楽しかった♪」とすっかりえびす顔になって帰られ、楽しい初詣ドライブとなりました。



「初詣」など馴染みの行事をはじめ、楽しい事や興味のある事などに参加すると、自然と脳や体の動きも活発になります。また、たくさん笑って喋ることで気分もすっきりして、心の安定にもつながります。「楽しい！」と感ずることは、認知症の方にとって、とても大切な支援の一つです。

作業療法士 上田 貴弘

第9回 に・フォーラムinなごみ 開催決定

日時：平成26年6月14日（土曜日）

13:00～

講師：南 健司 氏

（曹洞宗 高倉山願成寺 副住職）

認知症、家族、地域をテーマに開催していますフォーラムも9回目となりました。今年は、美祢市美東町大田にある三宝荒神様で有名な願成寺の副住職 南健司さんをお迎えして、認知症高齢者を取り巻く問題を仏様の智慧をお借りして、皆さんと一緒に考えていきます。南さんは、自身の東日本大震災ボランティア活動を通じ、犠牲者を弔う仏教の役割以上に、被災者を支える為の仏教の意義を痛感され、ご自身のお寺を舞台に「生きる」を説く仏教の根源を人々に伝えたいと寄添寺プロジェクトを立ち上げ活動されています。きっと、南さんのお話を通して、日常私たちが見落としてしまっている物の見方に気づかされ、新たな力をもらえそうです。お楽しみに。

編集 後記

立春も過ぎ、ふきのとうや竹の子の芽吹き、梅の開花など春を実感できる事が、直ぐそこまでやってきています。しかし、まだまだ、寒さが厳しい日が続いており、全国的にはインフルエンザや感染性胃腸炎の流行シーズンです。手洗いとうがいを十分に行い、健康にご注意ください。
（原川）